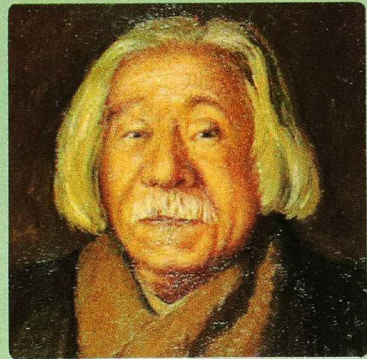


徳富蘇峰(本名・猪一郎)氏
(昭和30年1月1日表彰)
近世日本の先覚者。また、世界に
稀な優れた思想家であった。
熊本在住中は、白川新聞、熊本新
聞等を発刊。大江義塾の創始者と
して子弟の教育に専念し、その啓
蒙的影響が大であった。
文久3年1月25日生れ、
昭和32年11月2日死去、94歳。



高橋守雄氏
(昭和30年1月1日表彰)
第7代熊本市長として、歩兵23連
隊の移転・市電・上水道の開設の
三事業を完遂、市の近代化、発
展繁栄に尽した。また、教育者
として熊本商大、短大学長を歴任、
郷土教育の振興育成に努力した。
明治16年1月1日生れ、
昭和32年5月3日死去、73歳。



細川護立氏
(昭和35年4月1日表彰)
肥後旧藩主細川家16代。有斐学舎
舎長、肥後奨学会設立、多額の奨学
金を出資して本県出身学徒の育成
援護に尽した。国の文化財保護委
員会委員として、本市の重要文化
財、史跡、名勝等の保存活用に貢献。
明治16年10月21日生れ、
昭和45年11月18日死去、87歳。



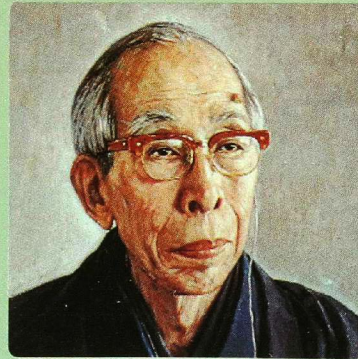
福田令寿氏
(昭和35年4月1日表彰)
医師開業のかたわら、医専五高等
で教鞭をとり子女の教育に専念の
外、社会文化、社会福祉の要職を
歴任、郷土の文化・福祉の向上発
展に尽した。清廉・潔白な人格者
であった。
明治5年12月7日生れ、
昭和48年8月7日死去、100歳。



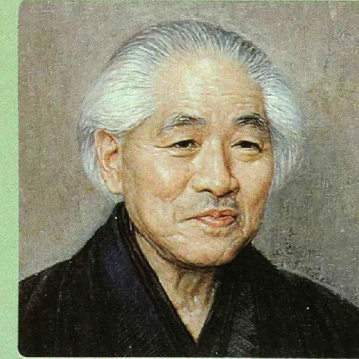
名譽市民



宇野哲人氏
(昭和44年10月1日表彰)
東京帝国大学での漢学・中国哲学
の教授、東京大学名誉教授、実践
女子大学々長、名誉教授等優れた
業績は、郷土熊本の文運の興隆に、
また、我国の漢学関係の学者者に
多大の影響を与えた。
明治8年11月15日生れ、
昭和49年2月19日死去、98歳。



堅山南風(本名・熊次)氏
(昭和44年10月1日表彰)
横山大観画伯等に師事し、日本画
に精進。その多くの作品の上に、
肥後の郷土色のにじみ出た芸術の
香りがよく生かされている。日本
画壇の第一人者といわれ、また、
郷土文化の進展に大きく貢献した。
明治20年9月12日生れ、
昭和55年12月30日死去、93歳。



後藤是山(本名・祐太郎)氏
(昭和54年10月1日表彰)
元九州日日新聞社主筆。生来の文
人墨客の性格と豊かな文筆で、数
多くの郷土史を編さん監修、先人
についての研究著述があり熊本の
文化の啓蒙に尽した。「明星」同人、
句誌「かはがらし」(後の東火)を
主宰した。明治19年6月8日生れ、
昭和61年6月4日死去、99歳。

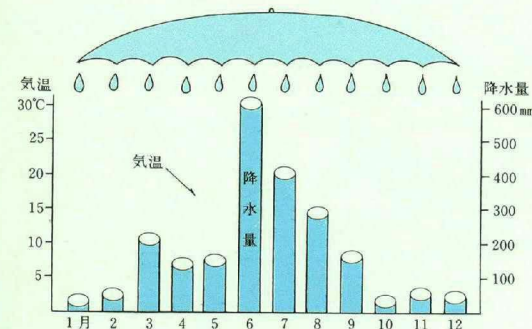


中村汀女(本名・破魔)氏
(昭和54年10月1日表彰)
高浜虚子の門下生で、現代女流俳
句の第一人者。常にふるさとを愛
する心を底流にした「汀女俳句」
は、氏の人柄と句にふれる人々に、
郷土愛を喚起させ、郷土の文化振
興に貢献。「ホトトギス」同人、「風
花」を主宰した。明治33年4月11日
生れ、昭和63年9月20日死去、88歳。



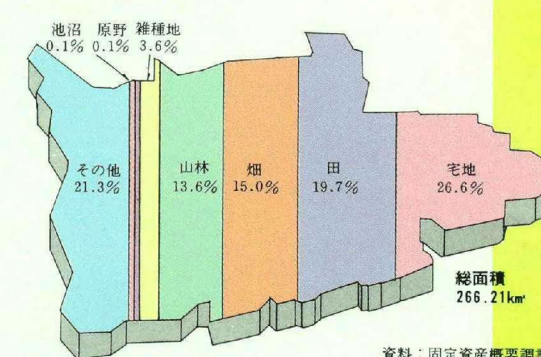
位置・面積
(熊本市役所)
東経 130°42'38"
北緯 32°48'00"
東西 24.1km
南北 20.9km
面積 266.25km²

■気温と降水量の月別変化(平成3年～平成5年平均)



資料：熊本地方気象台

■地目別土地面積(平成6年1月1日現在)



資料：固定資産概要調査

HUMAN CITY
KUMAMOTO

地域と気象

本市は九州の中央、熊本
県の西北部、東経130度42
分・北緯32度48分の位置に
あります。

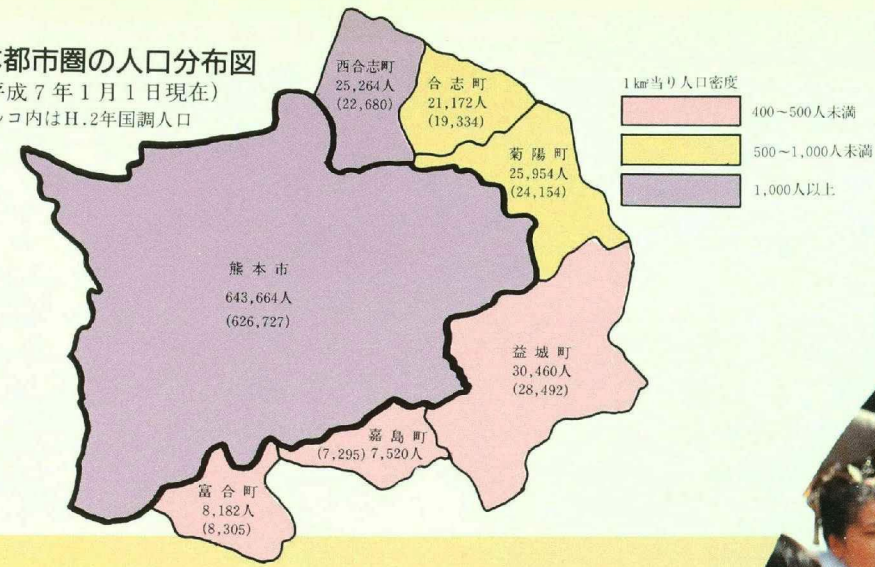
この位置と同緯度に近い
都市としては、長崎市や中
国の南京市があります。地
勢は西北部から北部にかけ
て金峰山を主峰とする複式
火山帯と、これに連なる立
田山等の小火山の噴出物で
覆われた台地からなり、東
部は阿蘇外輪火山群によっ
てできた丘陵地帯であり、
南部は阿蘇火山に源を発す
る白川の三角洲で形成され
た低平野からなっています。

気候は緯度からいえば温
暖な地帯にあるが有明海と
の間に金峰山系が連なるた
め、内陸盆地的気象条件と
なり、寒暖の較差が大きく
冬から春への移り変わりは
早く、夏は比較的長いこと
が多いようです。また、夏
の夕方は「肥後の夕風」と
いって、蒸し暑いのが特徴
です。

気温は年平均16.2℃で、
平成5年の最高気温は8月
の34.5℃、最低気温が1月
の-4.3℃となっています。
年間降水量は約3,369mmで、
4月～9月の半年間に約86
%の降水量がありました。
また、風向きは春から夏に
かけて西南西の風が強く、
秋から冬にかけては西北西
に変わり、風速は1年を通
して2m前後のゆるやかな
風が吹いています。

人口

■熊本都市圏の人口分布図
(平成7年1月1日現在)
カッコ内はH.2年国調人口

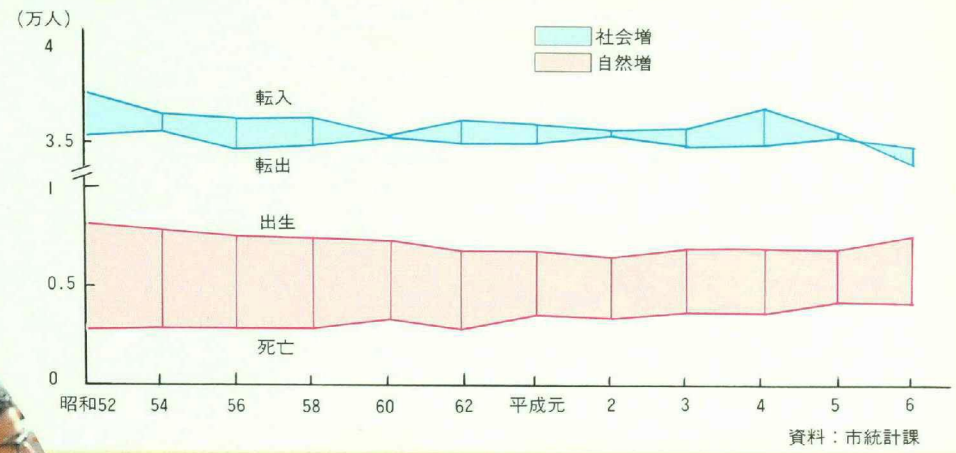


明治22年、市制施行当時42,725人(M.22.12.31現在)であった本市の人口は、その後、数回にわたる市域の拡大や都市機能の集積等に伴い増大し、昭和52年には50万人を超え、平成3年2月1日には、飽託郡4町と合併し、627,568人(224,219世帯)となり、岡山市を抜いて全国で15位となりました。また、近年の人口増加は年率1%前後で推移し、一世帯当たり人員は2.67人となっています。

また、平成2年と昭和60年の国勢調査を比べると23,587人、4.2%の増加で、昭和50年以降、増加数、伸び率ともに鈍化しています。さらに年齢3区分別みると、0～14歳の年少人口が19.3%、15～64歳の生産年齢人口が68.9%、65歳以上の老年人口が11.4%となっており、60年より年少人口の割合が2.2ポイント低下したのに対し、老年人口が1.5ポイント上昇するなど、高齢化が進みつつあります。

また、人口の地域分布では、平成2年の国勢調査結果でみると、およそ東部に24万7千人、北部に11万4千人、中央部に7万8千人、南部に7万4千人、西部に6万6千人となっています。この中で、

■人口動態の推移



中央部だけが人口の減少が続いています。

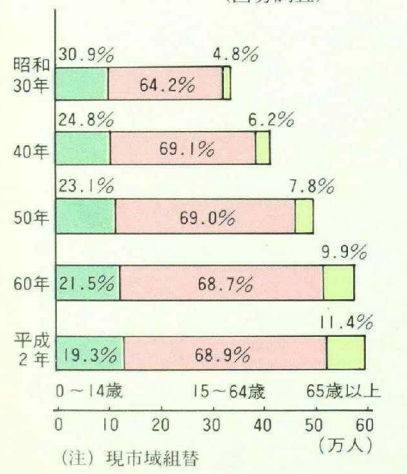
なお、人口分布の偏りを示す人口重心は、25年から一貫して東へ寄り続け、平成2年では、熊本高校運動場西側に移動し、相変わらず東部方面の人口が増加していることを示しています。

都市圏人口
 熊本都市圏の人口は、平成7年1月1日現在762,216人(276,071世帯)で熊本県総人口の41.1%を占めています。人口増加率は、0.6%となっています。

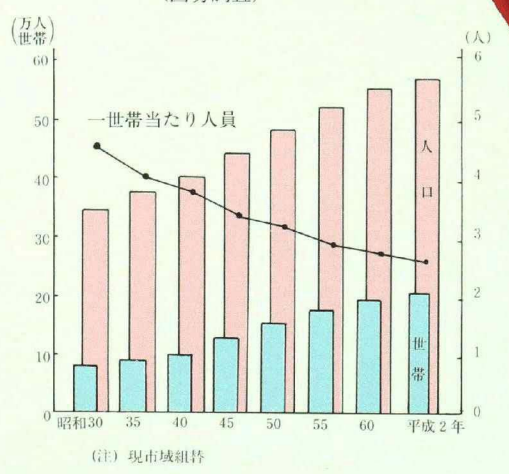
都市圏人口は、昭和30年国勢調査以降、5年毎に熊本市は4万人前後で増加していましたが、昭和60年から平成2年までは約2万4千人(4.2%)の増加となり、伸びが鈍化してきました。また、10町の人口は、昭和45年までは減少し、昭和50年に増加に転じ、55年にピークとなり、増加率は20.5%の大幅な増加となっています。

昭和45年から平成2年までの20年間の都市圏人口の増加数は約18万3千人となっています。現在、人口増加のピークは過ぎたものの年平均6千人から7千人の増加を続けています。

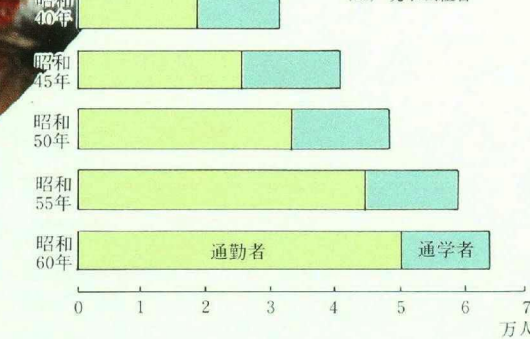
■人口の年齢(3区分)構成推移
(国勢調査)



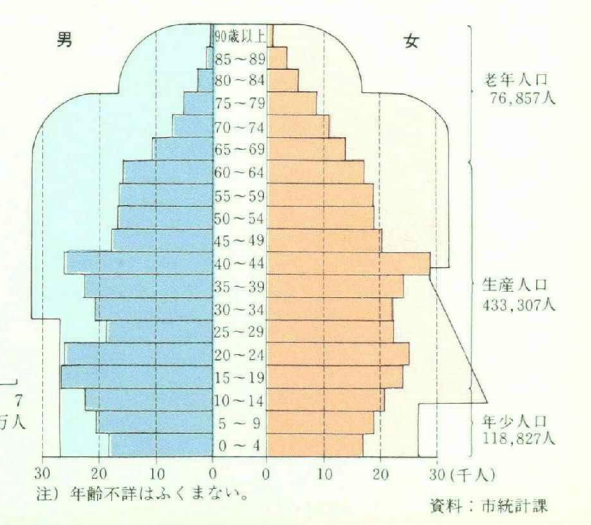
■人口・世帯数の推移
(国勢調査)



■流入人口の推移
(国勢調査)
(注) 現市域組替



■年齢別人口構成 (平成2年国勢調査)



基本構想ヒューマンシティくまもと

この基本構想は、市民と行政が一体となった今後の都市づくりの目標として、将来の熊本市像を描き、これを実現するための基本方策を明らかにするものである。

これに基づいて別に定める基本計画、実施計画とあわせて、総合的・計画的な市政運営の指針とする。

水と緑の
人間環境都市を目指して

いきいきとした
市民福祉都市を目指して

活力あふれる
交通拠点都市を目指して

風格ある
文化創造都市を目指して



Human City Kumamoto

水と緑の
人間環境都市を目指して

本市は、清れつな地下水や豊かな緑など恵まれた自然環境とそこに息づく生態系循環を大切に、人と自然が共生する都市をつくる。また、市民が安全で快適に過ごせる生活環境を確保し、ゆとりや潤いのある良好な環境の都市を目指す。